

ISO 認証機関

ASR 通信

エイエスアール

<https://www.armsr.co.jp/>

2025 December
VOL.48



- エイエスアールのお客様紹介 p.2-3
株式会社川島鉄工所様
- ISO9001規格要求事項の勘違い Vol.4 p.4-5
- 【特集】ISO9000/ISO9001/ISO14001 p.6-7
規格改訂情報 2026
- 組織様向け情報 p.8

株式会社川島鉄工所様 (愛知県名古屋市)

今回は、名古屋市の株式会社川島鉄工所様をご紹介します。
同社は明治34年に創業し、今年で124年を迎える老舗企業です。
官公庁発注の大規模工事のみならず、地元根付いた工事も幅広く手がけていらっしゃいます。2006年にISO9001・ISO14001
を取得され、品質と環境への取り組みを推進されています。

本インタビューでは、統括本部長の塚本 泰史様にお話を伺いました。



統括本部長
塚本 泰史 様

—貴社の概要について、お話しいただけますか。

弊社は明治34年に創業し、今年で124年を迎えます。主に水処理や環境設備に関する工事を手がけており、特に公共の環境設備工事を中心に、機械設備工事の受注実績も豊富です。さらに、既存設備の更新や修繕工事など、幅広いニーズに応えてきました。

もともとはボイラーや圧力容器の製造からスタートしましたが、そうした製品の受注が減少してきたこともあり、水処理や環境機械設備へと事業をシフトしてきました。公共工事を中心に手がけるようになったのは、おそらく30年近く前のことだと思います。

—取引先は、水道局や愛知県、名古屋市など、官公庁が中心なのでしょうか。

はい、基本的には官公庁が中心です。名古屋市や愛知県をはじめ、近県の岐阜県や三重県、静岡県、場合によっては関西圏まで、公共工事の入札に参加させていただいております。

工期は長いもので2～3年かかるものもあります。受注については基本的にJV(※1)ではなく、単独で受けることが多いです。

しかし、大規模な工事だけでなく、小規模なものや、急な修理依頼にも対応しています。これは、もともと地元で既存の設備の修繕やメンテナンスを長年手がけてきた経験があるためで、既存の機械については熟知しています。そのため、細かい修理や急な対応にもすぐ駆けつけられる点を重宝いただいております。時には工具を3つほど持って現場に行き、ハンマーで叩いて直すこともあります。

※1 JV(ジョイントベンチャー)：複数の企業が共同で工事を行うために組む組織・契約のこと

—「ロースター事業」というものもやられているのですね。

当社では、食品を加熱・焙煎するための機械である、ロースターを製造する事業も40年近く前から続けています。分野としては環境機械ではなく食品機械にあたるのですが、水処理とは独立したかたちで、民間企業さま向けに対応している事業です。設計から製造に至るまでを一貫してすべて当社で手がけ、長年にわたりノウハウを蓄積してきたこともあり、この事業については大分確立されたものになっています。

当社の機械は、アーモンドなどの豆菓子加工に特化しており、現在でも多くのお問い合わせをいただいております。設計段階から当社独自の技術と経験を活かした“唯一無二の機械”であることもあり、社長もこの事業を大切に、伝統として守り続けていく方針です。

—ISOについてもお聞かせください。2006年に初めて取得されたとのことですが、取得の背景や経緯について教えてください。

当時は、ISO取得によって官公庁の入札で評価が上がるといったことはありませんでしたので、社内で品質管



理を一層徹底していくことを目的に、取得をスタートしました。

工事現場において品質管理は非常に重要な要素ですので、その部分を強化するにはどうすればよいか、検討していました。その結果、ISO9001、品質マネジメントシステム規格に基づく体制の導入が適していると判断し、取得に向けて取り組みを進めることになりました。

当時はまだ2006年で、すでに認証を取得している企業もありましたが、私たちの地元の同業者では、取得が進んでいる会社はあまりなかったように思います。

—取得の際に1番苦労した点はどこですか。

やはり用語の部分ですかね。普段あまり耳にしない専門用語や、英語などもマニュアルに出てきますので、その解釈に少し時間がかかりました。

“こういう解釈だろう”と理解していても、審査の段階になると『この規格はこういう意図で要求しているんですよ』とご指摘いただくことがあり、認識のずれが生じることがあります。その際には、その意図に合わせてマニュアルを修正していく必要があるため、その点が難しさのひとつだと感じています。

特に環境では難しい内容が多く、法令や環境側面が絡むと、どの部分が特に重要か判断するのが難しいことがあります。審査の際には、いつも審査員の方に『これはどうでしょうか』と確認しながら進めています。

—ISOを取得されたメリットは、どのあたりで最も実感されていますか。

やはり、取得することで社員の品質管理への意識やモチベーションが向上しました。また、ISO9001やISO14001を取得していることで、お客様からの信頼も得られます。この2点が大きなメリットだと感じています。

—ASRでの審査は2011年から、もう15年近く継続して受けていただいております。弊社の審査はいかがですか。

いつも審査を通じて多くのことを学ばせていただいています。品質は大分理解が進んできましたが、環境では専門用語など、理解が難しいところもあります。私は管理責任者として学び、社員にも覚えてもらわなければならないのですが、この部分が非常に大変なところです。その点で、審査に来られた審査員の方に意図や内容を詳しく説明していただけるので、私たちも噛み砕いて社員に伝えることができ、大変助かっています。

—ISOを社員の皆様に理解してもらうために、どのような取り組みをされていますか。

マニュアルについては、全員がいつでも読める状態にしておき、日常的に見てもらおうようにしています。また、年2回のマネジメントレビューも実施しており、そのタイミングで全体会議を開き、年度内に起きた事柄の振り返りや、ISOの観点から『ここはこうでした』という共

有、苦情や良かった点などの報告を行っています。さらに、マニュアルや帳票類に変更があった場合には、その場で全員に周知するようにしています。

—ISO以外で力を入れている活動はありますか。

そうですね、子育て支援は特に重視しており、「愛知県ファミリーフレンドリー企業(※2)」「名古屋市子育て支援事業(※3)」にも認定されています。例えば、お子さんが急に熱を出した場合には、すぐに早退していただいて構いませんし、学校行事などでのお休みも柔軟に対応しています。こうした取り組みを通じて、子育て中の社員が働きやすい環境を整えることに力を入れています。

※2 愛知県ファミリーフレンドリー企業：「仕事と生活（育児・介護・地域活動など）を両立しやすい職場環境づくりに積極的に取り組む企業」を、愛知県が認定・登録する制度

※3 名古屋市子育て支援事業：子育てにやさしい活動を行っている企業を認定し、社会全体で子育てしやすいまちづくりを進める名古屋市の事業

—今後の目標などはございますか。

現在は水処理関連の機械設備工事を主に手がけており、既存設備の更新工事や補修・修繕工事が中心ですが、今後は社内で独自の新しい装置などの開発を進めていければと思っています。

—最後に、会社のPRをお願いします。

当社は創業から100年以上の歴史を持ち、その長い歴史の中で培ってきた技術力が強みです。鉄工所としての確かな技術に加え、ISO取得による品質管理などにも非常に力を入れています。

工事の確かな品質の確保と環境への配慮を実現するため、主体的にISOに取り組まれている企業様でした。これからも200年、300年と歩みを重ね、ますます発展されることを願っております。



当コーナーでは、弊社の登録企業様のISO活動や事業をご紹介します。事業への思いや取り組みなどについて、PRしてみたい企業様は、是非、下記宛にご連絡ください。

ASR通信 事務局 E-mail: otoiwase@armsr.co.jp

ISO9001 規格要求事項の勘違い

Vol.4

ISO 9001の要求事項の勘違いシリーズは今回で最後になります。これまで解説した内容を理解してQMSの改善に役立ててください。

1. 8.2.1 顧客とのコミュニケーション

勘違い 8.2.1と7.4（コミュニケーション）は、同じことを要求している。

7.4は、品質マネジメントシステムに関するコミュニケーションです。品質マネジメントシステムの定義は、“品質に関する方針及び目標、並びにその目標を達成するためのプロセスを確立するための、相互に関連する又は相互に作用する、組織の一連の要素”です。したがって、QMSに関するコミュニケーションを要求しています。

一方、8.2.1は、製品及びサービスに関する要求事項について、顧客とコミュニケーションをすることです。なお、顧客とのコミュニケーションでは、会議、電子メール及び文書のやりとりを通じた直接的な連絡、又はウェブサイトコンテンツ、出版物、ソーシャルメディア、よくある質問への回答及び教育・訓練を通じた間接的な方法があり得ます。

2. 8.3.4 設計・開発の管理

勘違い 8.3.4のレビュー、検証、妥当性の確認は、個別に行う必要がある。

レビュー、検証、妥当性の確認の定義は、ISO 9000では次のようになっています。

- ・レビュー：設定された目標を達成するための対象の適切性、妥当性又は有効性の確定
- ・検証：客観的証拠を提示することによって、規定要求事項が満たされていることを確認すること
- ・妥当性の確認：客観的証拠を提示することによって、特定の意図された用途又は適用に

関する要求事項が満たされていることを確認すること

上記の定義から判断するとレビュー、検証、妥当性の確認は目的が違うが、必ず個別に行う必要はなく、組み合わせて行うことができます。例えば、検証と妥当性の確認を同時に行うことがあります。

3. 8.3.6 設計・開発の変更

勘違い 設計・開発の変更では、8.3.4のレビューだけを行えばよく、検証や妥当性の確認は行う必要はない。

ここでのレビューとは、設計・開発の変更をレビューすることであるので、8.3.2～8.3.5の変更に関する活動の適切性、妥当性又は有効性を確定することが必要です。したがって、8.3.4b)のレビューだけのことを規定している訳ではありません。

設計変更する場合には、事前に設計変更によって影響を受ける機能・パフォーマンスなどを確認する必要があります。

4. 8.4.1 一般(外部から提供されえるプロセス、製品及びサービスの管理)

勘違い 外部提供者の評価の基準と再評価を行うための基準は同じでなければならない。

この要求事項では、外部提供者の基準を決める、再評価の基準を決めることが要求されているので、同じでなければならないということは規定されていません。

一般的には、初めて取引をする際の基準と継続して取引をする場合の基準では、後者の方が外部提供者の能力を熟知しているので評価項目が少なくなります。

5. 8.5.1 g) 製造およびサービス提供の管理

勘違い ヒューマンエラーの対策は必ず実施しなければならない。

要求事項は“ヒューマンエラーを防止するための処置を実施する”ことであるので、未然防止の活動を行うことが必要であり、10.1と関係があります。

この要求事項の意図は、ヒューマンエラー対策を行うと決めた場合には、これを実施するということです。

ヒューマンエラーとは、意図しない結果を生じる人間の行為のことで、人為的過誤や失敗(ミス)のことを言います。ヒューマンエラー対策には、エラープルーフ化を図る必要があります。エラープルーフ化とは、ヒューマンエラーを防止する、あるいはそれによって引き起こされる影響を軽減するための製品・サービス又は作業方法(部品・材料、設備・治工具、作業指示書、手順などの要素及びそれらの繋がりを含む)に関する工夫を行うことです。

なお、エラープルーフ化の原理を図1に示します。

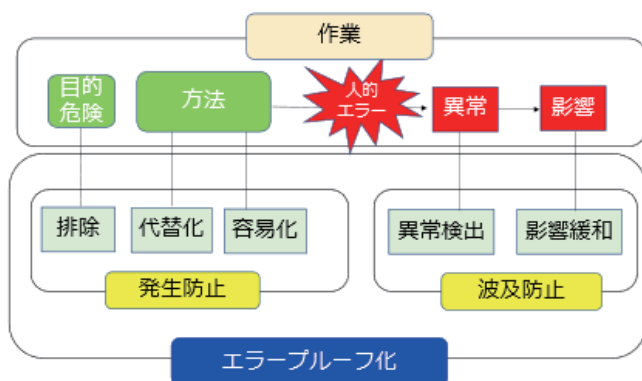


図1 エラープルーフ化の原理

6. 8.5.6 変更の管理

勘違い 変更の管理とは、QC工程表の変更のことである。

製造又はサービス提供に関する変更についての要求事項です。したがって、関係する要求項

番は、8.5.1、8.5.4に関する変更の場合が該当するので、QC工程表の変更だけではありません。いわゆる、日常管理における変更管理についての要求事項であると考えるとよいでしょう。

なお、変更管理の考え方は次の通りです。変更の対象・内容・範囲・時期などを文書化し、識別し、設計時と同様の評価を行い、変更の実施前に承認します。目的とする変更の効果が得られるかどうかだけでなく、その変更が、製品・サービスを構成する他の要素および既に引き渡されている製品・サービスに及ぼす影響も評価します。なお、変更を実施する場合には、顧客を含め関係する部門・組織との情報を共有することが大切です。

7. 9.2 内部監査 9.2.1

勘違い 内部監査では毎回全ての部門に対して監査を実施する必要がある。

監査プログラムをどのように設定したかによって変わってきます。例えば、営業、設計・開発、調達、製造プロセスは毎回実施する、他の支援プロセスは二年に一回行うという計画を立てても良いです。しかし、監査プログラムで、毎回全ての部門に対して監査を実施すると設定した場合には、このとおり実施する必要があります。

8. 10.2 不適合及び是正処置 10.2.1 b)

勘違い 処置をとる必要性を評価するとは、処置が必要かどうかを考えることである。

不適合の原因を除去するための処置には、色々な方法があります。したがって、どの方法を採用するかを評価するという意味であるので、処置が必要かどうかを考えることではありません。

次号からは新連載をお届けします。お楽しみに！

福丸 典芳 氏

(株)福丸マネジメントテクノ代表取締役

著者紹介

日本規格協会品質マネジメントシステム国内委員会の委員を務め、ISO 9001の規格作成にも携わる。

コンサルティング業務、講演会・研修会の実施、書籍の執筆など多方面で活躍。

近著に「ISO統合マネジメントシステムの構築と内部監査の実践」がある。

【特集】

ISO9000/ISO9001/ISO14001

規格改訂情報 2026

ISO 9000、ISO 9001、ISO 14001が現在改訂作業中であり、その概要について解説します。

この情報は2025年12月現在でのものであり、今後の改訂作業によっては変更される場合がありますので、最終的にはJIS発行後に確認してください。

1. ISO 9000

2023年8月から改訂作業が開始され、2024年5月に委員会原案CD (Committee Draft)、2025年4月に国際規格原案DIS(Draft International Standard)、2025年11月に最終国際規格原案FDIS (Final Draft International Standard) 発行予定(2025年12月2日現在FDISは未発行)、2026年1月に国際規格IS (International Standard) 発行予定、2026年12月にJIS発行予定になっています。

DISでの主な変更点としては、「2.3 品質マネジメントの原則」に「一般（品質マネジメントの考え方）」を追加すると共に、「2.3.3 人々の積極的参加」及び「2.3.6 客観的事実に基づく意思決定」の「2.3.3.1 説明」と「2.3.6.1 説明」が一部追記されています。さらに全体的に根拠、主な便益、取り得る行動についても一部変更しています。

「2.2 基本概念」を「2.3 基本品質マネジメント概念」とし、「2.2.1 品質」及び「2.2.2 品質マネジメントシステム」を一部修正し、新たに、品質マネジメント、品質保証、品質管理、品質計画、プロセスマネジメント、リスクに基づく考え方、組織の品質文化、継続的改善についての考え方が追記されました。

「2.2.3 組織の状況」、「2.2.4 利害関係者」、「2.2.5.2 人々」を修正し、新たに、統合マネジメントシステム、循環経済、新興技術、革新、変更マネジメント、顧客体験、知識マネジメント、情報マネジメント、事業継続に関する考え方について「2.4 品質マネジメントに関連する追加概念」として追記しています。

箇条3の用語として、品質文化（ISO9001の改訂との関係）が追加されました。

2. ISO 9001

2023年6月から改訂作業が開始され、2023

年4月に委員会原案CD、2025年8月に国際規格原案DISが発行され、2026年4月に最終国際規格原案FDIS発行予定、2026年9月に国際規格IS発行予定、2026年12月にJIS発行予定となっています。

DISでの主な変更点としては、要求事項の構造をISO/IEC 専門業務用指針附属書SL（共通テキスト）に整合させているので、QMSに関する要求事項は共通テキストの後に記述されています。

また、文書化した情報の維持、保持の表現を共通テキストへの整合のため、次のように変更しています。

- ・「文書化した情報を維持する」を「文書化した情報を利用可能な状態にする」に変更
- ・「文書化した情報を保持する」を「～の証拠として文書化した情報を利用可能な状態にする」に変更

3. ISO 14001

2023年7月から改訂作業が開始され、2024年2月にCD、2025年2月にDAM (Draft AMendment)、2025年12月にFDIS発行予定、2026年3月に国際規格IS発行予定です。

DAMの主な変更点としては、ISO9001と同様に「文書化した情報を維持する」を「文書化した情報を利用可能な状態にする」に、「文書化した情報を保持する」を「～の証拠として文書化した情報を利用可能な状態にする」に変更しています。

ASRでは今後も規格改訂についての最新情報をニュースレターやホームページにてご案内をしてまいります。

[ASRホームページ](#)

[ISO9001/ISO14001 規格改訂情報](#)

<https://www.armsr.co.jp/iso/ikou2026/ikou2026.html>

[ISO9001 DIS改訂動向説明動画](#)

https://armsr.co.jp/iso/ikou2026/movie/dis_kaitai.mp4

各箇条ごとの主な変更点(抜粋)

ISO9001 箇条毎の主な変更点	
箇条3 用語及び定義	ISO/IEC専門業務用指針附属書SL（共通テキスト）の用語（20）とISO 9000の用語（3）を追記
箇条4 組織の状況	4.1 共通テキストに合わせるため、「組織は、気候変動が関連する課題かどうかを決定しなければならない」（気候変動に関する要求事項（追補分））を追加
	4.2 共通テキストに合わせるため、「c)それらの要求事項のうち、品質マネジメントシステムを通して取り組むもの」及び「注記 密接に関連する利害関係者は、気候変動に関する要求事項をもつ可能性がある」（気候変動に関する要求事項（追補分））を追加
箇条5 リーダーシップ	5.1.1 一般 「i) 品質文化及び倫理的行動を促進する」及び「注記2 組織の品質文化及び倫理的行動は、組織が共有する価値観、姿勢及び確立された慣行に反映される」を追加
箇条6 計画策定	6.1.1 リスク及び機会の決定のタイトル追加
	リスク及び機会への取組みのプロセスは別と考えて「6.1.2 リスクへの取組」、「6.1.3 機会への取組」に分離
	6.3 変更の計画策定 要求事項に「c) 資源の利用可能性」を「c) 資源及び情報の利用可能性」に変更 「e) 変更の有効性の監視方法及び評価方法、f) 変更のコミュニケーション、g) 変更の結果のレビュー方法」を追加
箇条7 資源	7.3 認識 「e) 組織の品質文化及び倫理的行動」を追加
箇条8 運用	分かりやすさのため、一部文言を変更（意図は変わらない）
箇条9 パフォーマンス 評価	9.3.2 マネジメントレビューへのインプット
	c) 品質マネジメントシステムに関連する利害関係者のニーズ及び期待の変化」を追加
箇条10 改善	「10.1 改善」と「10.3 継続的改善」を統合し、「10.1 継続的改善」に変更
	10.1 c) 品質マネジメントシステムのパフォーマンス及び有効性の改善」を削除
	10.2.1 「b)1) その不適合をレビューし、分析する」を共通テキストに合わせるため、「10.2.1 b)1) その不適合をレビューする」に変更
その他	Annex（附属書A）の充実
ISO14001 箇条毎の主な変更点	
箇条4 組織の状況	4.1 課題として「汚染レベル、天然資源の利用可能性、気候変動、生物多様性及び生態系の健全性」を追加
	4.2「注記 関連する利害関係者は、汚染レベル、天然資源の利用可能性、気候変動、生物多様性及び生態系の健全性などの環境状態に関連するニーズ及び期待をもつ可能性がある」を追加
	4.3「e)管理し影響を及ぼす・・・」を「e)ライフサイクルを考慮した管理し影響を及ぼす・・・」に変更
箇条5 リーダーシップ	一部変更
箇条6 計画	6.1 一般 6.1.1の第二パラグラフ（環境マネジメントシステムの計画及びリスク・機会の決定に関する事項）を「6.1.4 リスク及び機会」（節の追加）に移動、第三パラグラフ（潜在的な緊急事態に関する事項）を「6.1.2 環境側面」に移動
	6.1.2 環境側面 ライフサイクルの視点と各段階に関する注記の追加、6.1.1の第三パラグラフを「6.1.2 環境側面」に挿入、6.1.2b)をb)非通常の状況、c)潜在的な緊急事態に分離
	6.1.4 リスク及び機会 6.1.1の第二パラグラフを挿入 「6.1.4 取組みの計画策定」を「6.1.5 取組みの計画策定」にタイトル変更
	6.3 変更の計画及び管理 「組織が環境マネジメントシステムに影響を与える、又は影響を与える可能性のある変更の必要性を決定したとき、その変更は、計画的な方法で行わなければならない。その変更は、組織が環境マネジメントシステムの意図した成果を達成できることを確実にするように管理されなければならない。」を追加
箇条8 運用	分かりやすさのため、一部変更（意図は変わらない）
箇条9 パフォーマンス 評価	9.1.1 一般 「a) 監視及び測定が必要な対象」を「a) 監視、測定及び分析が必要な対象」に変更

エイエスアールの
教育サービス



講師によるライブ解説の**セミナー**と、好きな場所・時間に学べる**学習動画（eラーニング）**をご用意。目的や働き方に合わせて、最適な学習スタイルをお選びいただけます。



入門セミナー

WEB
セミナー e
ラーニング

ISO9001/ISO14001
ISO/IEC27001/ISO45001 ※ISO45001はeラーニングのみ

「ISOとは何か」から始まり、マネジメントシステム規格がどのようなものかといった、ISOの基礎を解説します。



規格ポイント解説セミナー

WEB
セミナー e
ラーニング

ISO9001/ISO14001
ISO/IEC27001/ISO45001 ※ISO45001はeラーニングのみ

規格要求事項のポイントについて、半日（3時間）で解説します。「規格要求事項を勉強したいけど、あまり時間が取れない…」という方におすすめです。



内部監査員養成セミナー

集合
セミナー e
ラーニング

ISO9001/ISO14001
ISO/IEC27001/ISO45001 ※ISO45001はeラーニングのみ

ISO規格要求事項の解釈、内部監査員に必要な基礎知識と技能を実践的な講義と演習で学習します。



規格要求事項の解説セミナー

集合
セミナー e
ラーニング

ISO9001/ISO14001 ※ISO14001は集合セミナーのみ

規格要求事項について、各箇条の意図や要求事項を満たすためにすべきことなどを解説します。要求事項について理解を深めるための講座です。

詳細・お申し込み ➡ <https://www.armsr.co.jp/ac/index.html>

ASR 教育サービス

検索



エイエスアールの スタッフ紹介

流れをつかむ営業マンをモットーに！



氏 名：土屋 智靖（つちや ともやす）
所 属：営業部
趣 味：フットサル
スポーツ観戦（サッカー・野球・バスケット）

いつも大変お世話になっております。営業部の土屋と申します。私は毎月20～30社のお客様とお打ち合わせし、課題解決につながるサービスをご提案しております。

さて、私事ではございますが、日頃よりスポーツに囲まれた生活を送っております。現在はフットサルに力を入れており、チームに所属し、週1回の練習と隔週のリーグ戦に出場しています。リーグは年間成績で昇格・降格が決まり、今年の目標は「降格しないこと」です。

フットサルとは簡単に言うと、「5人制のサッカー」で、サッカーの約1/9のコートで行われる競技です。狭いコートでのパス回しはかなり難しいですが、チームで共有したルールのもと細かく連動することで得点につながります。逆に連動がうまくいかなければ得点できず、失点を重ねるなど、状況が悪化してしまいます。

この「ルールの遵守と連動が成果を生む」点はISOにも通じると感じています。

また、プレーするだけでなく「スポーツ観戦」も大きな楽しみです。バスケットボールやサッカー、野球などを観戦しますが、どの競技にも「試合の流れ」が存在し、その変化を読み取る・感じ取ることが観戦の醍醐味です。

この流れやタイミングという概念は、私の営業活動にも非常に大きな影響を与えています。お客様の状況に合わせ、最適なタイミングでご提案すること、これはスポーツと同じく、成果を左右する重要な要素だと考えています。お客様それぞれのご状況は日々変化するため、その変化を感じ取り、より適切なお提案ができるよう、今後も引き続き尽力してまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

発行元：エイエスアール株式会社

本 社：〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-10-15
TEL 03-3666-8757(代) 03-3666-0478(営業部)

名古屋支社：〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅4-2-5
TEL 052-533-1822

名古屋第二支社：〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄4-3-26
TEL 052-211-7102

大阪支社：〒541-0053 大阪府大阪市中央区本町4-5-16



品質・環境・労働安全衛生 情報セキュリティ

★次回発行は2026年2月の予定です。（年4回発行）
皆様からのご意見、ご感想をお待ちしております。

E-mail otoiawase@armsr.co.jp

ASR ISO

検索